

# 宇治方面へ

(第 95 回くらわん会 2004/05/04)

生憎の雨である。今日一日降り続くとの予報が出ている。それでも 40 人が集まってくる。カッパに長靴という完全武装のいでたちできている人もいる。今日は本来なら天ヶ瀬ダムまで行き、長い階段を登って森林公園に行く予定であったが、この天気なので、宇治川左岸を行き途中から吊橋を渡って右岸を帰ってくるショートカットコースに変更された。何れにしても雨でも雪でも決行するというこの会の原則が生きているのである。

有名な宇治橋を渡って行く。天気がよければゴールデンウイークの最中であり、このあたりは人出で賑わう所であるが、生憎の天気で人通りも少ない。橋桁に青鷺が一匹何に思うか佇んでいる。宇治川の上流の方は靄でけぶっており幻想的な感じが出ている。平等院への道は素通りして、縣神社にやってきた。6月に行われる縣祭りは暗闇祭りとして有名で真夜中に沢山の人が集まってくる。そんな気配すら感じられない人気のないちっぽけな神社に頭を下げる。

一行は傘をさして宇治川左岸の道をもくもくと歩いていく。いつもならこの3倍もの人が長い行列を作るが、40人くらいであればまとまりやすい。本当はいつもこのくらい的人数くらいがちょうどよいと思うのだが。

宇治川は川幅も広くとうとうと流れており、兩岸の新緑が雨に濡れてことさらみずみずしい。何が釣れるのか釣り人が竿をたれている。やがて宇治川に架かる吊橋が見えてきた。この袂にトイレもありここで一服することになる。中国語らしい言葉を早口で巻くしている親子5人連れが橋の上から上流を眺めている。

吊橋を渡り右岸沿いの遊歩道を帰ってくる。薄暗い深い緑のトンネルを過ぎると、中之島あたりの宇治川の広い伸びやかな眺めが現れる。亀石楼の前の河原に亀の形をした大きな石が4匹ほど横たわっている。発電所からの水が合流して水しぶきを上げている。中ノ島に渡る朝霧橋のあたりで解散となった。まだ12時前である。

天ヶ瀬ダムから森林公園に行く予定を、宇治川左岸を行き吊橋を渡って右岸を帰ってくるコースに変更



天気がよければゴールデンウイークの最中で人出で賑わう所であるが、生憎の天気で人通りも少ない



橋桁に青鷺が一羽何を思うか佇んでいる



宇治川の上流の方は靄でけぶっており幻想的な感じが出ている





宇治川左岸から宇治方面を見るが雨にかすんでいる

一行は解散後、思い思いに弁当を食べるところを探しに中ノ島へと行く。円山公園の枝垂れ桜を少し小ぶりにした桜の木も今は緑が濃い。その後ろに見えるのは大きな十三重の石塔で堂々と聳えている。川岸に船宿が数件並び、鵜飼舟が何艘か舫っている。いよいよこれから鵜飼の季節になり、大きなゲージの中に鵜が出番を待っている。今日は宇治川畔を歩き、雨の風情を楽しんだ。

石田富雄記



雨にけぶる天ヶ瀬つり橋と宇治川が幻想的な風景

新緑の山の緑が雨に濡れてことさらみずみずしい



何が釣れるのか釣り人が竿をたれている

天ヶ瀬つり橋を渡って右岸へ



右岸から新緑の山を見る、紅葉谷付近

亀石楼の前の河原に亀の形をした大きな石が4匹ほど横たわっている





曹洞宗の開祖、道元ゆかりの興聖寺山門

右岸遊歩道から中の島公園（塔の島）を望む、発電所の排水が勢いよく水しぶきを上げている



南禅寺三門から見た桜

右岸の遊歩道を行く40人だとまとまりやすい



道路わきのつつじの生垣

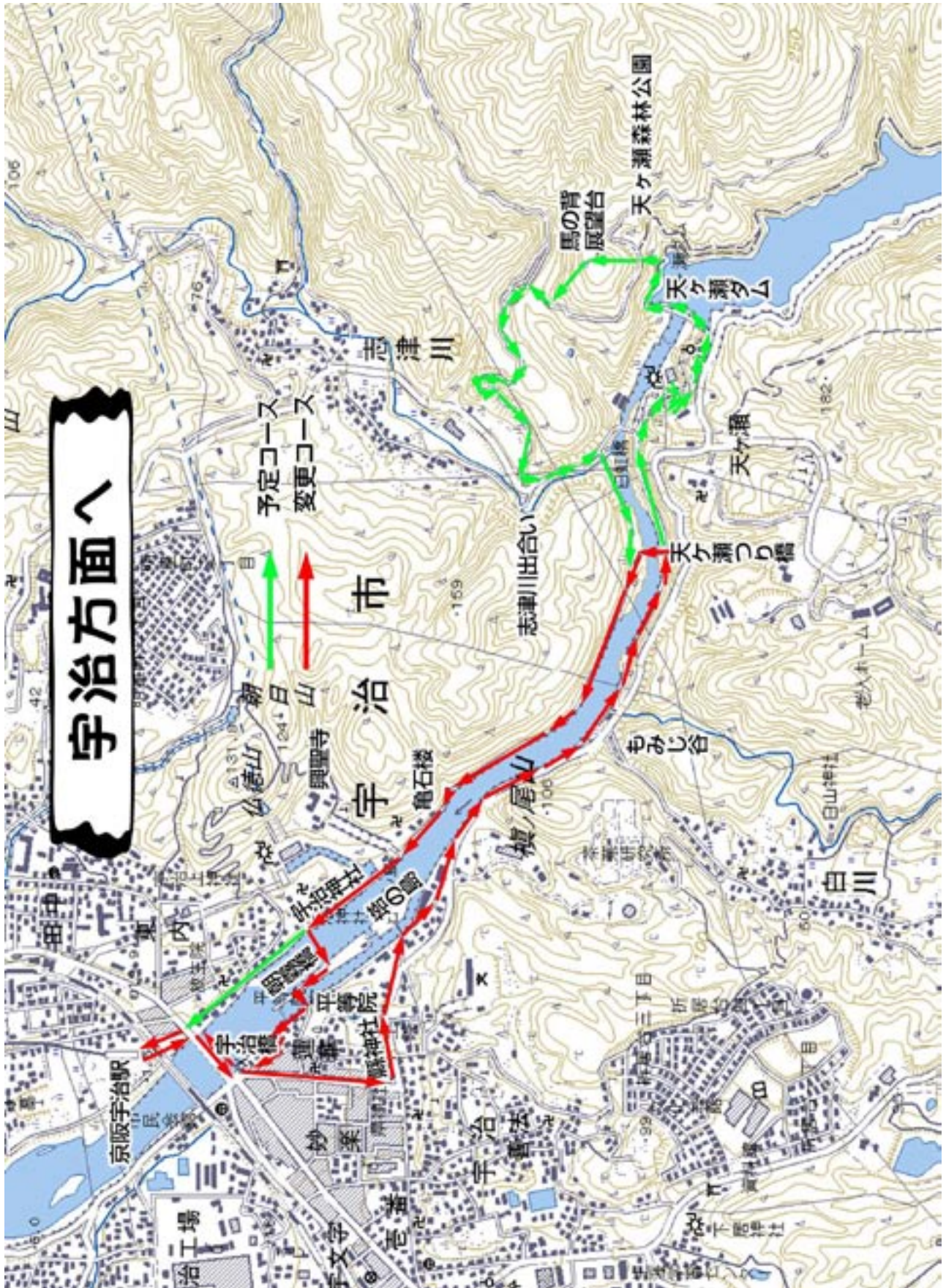
中の島公園（塔の島）の十三重の石塔が雨の中でそびえている



朝霧橋たもとの紫式部の像、付近で今日は早い解散となった

円山公園の枝垂れ桜を少し小ぶりにした桜の木も今は緑が濃い





＜行程＞

京阪宇治駅⇒宇治橋⇒宇治川左岸⇒縣神社⇒天ヶ瀬つり橋⇒宇治川右岸⇒亀石楼⇒朝霧橋⇒京阪宇治駅 歩行距離：5 km

2004年05月04日（火） 第95回例会 40名参加